

サポートルーム通信

五中担当 サポートルーム教員

田口丈貴/吉田菜那子

他校担当 サポートルーム教員

金山千里/佐々木浩人/伊藤弦哉/清水聡子

専門員 高野滋

この1年間を振り返って

令和五年度ももうすぐ終わります。そこで、サポートルームでの一年間の授業の振り返りを先生方がしました。

授業を進めるうえで工夫したこと

教員がただ一方的に話すのではなく、生徒の皆さんが考えたり、体験したり、楽しんだりしながら力をつけられるような授業をいかにできるか、毎時間工夫したことです。一人一人違った内容なので、毎回丁寧に計画を立てて授業を行いました。

授業を進めるうえで気を配ったこと

授業の「目標」を生徒に伝えることです。時にはカードゲームなど一見すると遊びのような活動も行いますが、どのような力をつけるために実施しているのか、しっかりと伝えてきました。

生徒の特性に応じた授業のキーポイント

皆さんは、例えば目の前にペンがあると気になって、つい触ったり、回してしまったりする経験はありませんか？授業により集中してもらうために、最初に連絡帳を書いたら机の上は全て片付けてもらっています。また、話を聞くことに集中できると、授業もより充実していきます。

生徒の成長がよく見られた事例

三年生は、必要に応じて面接の練習にも取り組みました。面接という場で、自分の考えを他者へ伝えることや相手に対応して受け答えることなど、これまでの活動でつけてきた力を存分に発揮することができました。その姿をみて大きな成長を感じました。

授業でのひとことで変わることも…

ほめることで生徒は自信をつけて成長していきます。サポートルームの授業でも、先生のはめ言葉や励ましは、時には深く生徒の心に響き、その後の考え方や行動に大きく影響を与えることもあります。



～ これまでの授業中で ～

あなたの優れたところは〇〇です。苦手なところはばかり気にしているようですが、それよりもその優れたところにより目を向けて、さらに伸ばしましょう。その伸びや自信が苦手なことに好影響を与えるはずですよ。

あなたは自分に厳しめですね。もう少し自分に対して「ゆるめ」でも大丈夫ですよ。

目標が大きすぎて、やろうと決めたことができなくなると「やっぱりだめなのか」とあきらめてしまうことがありますね。目標決めはスモールステップで！ちょっと頑張ればできるところから始めましょう。

(テスト後の) 振り返りがしっかりとできていますね。見直すことであやふやだった知識の理解が深まります。この調子で頑張ってください。

やる気がおきないときや気分が乗らないときは誰にでもあります。私もあります。そういうときにどうやってパワーアップするかは人によってまちまちです。いろいろ試してみて、あなたに合った方法を探していきましょう。



もちろん、一言ほめ言葉や励まし言葉も毎回かきません。素晴らしい！/その調子！/やったね！/スゴいね！/エライ！/さすがだね！……

サポートルームに通室していない生徒の皆さんにも、あてはまるものがあるかもしれません。あてはまる人は自分のアドバイスを受け止めて、これからの学習や生活に生かしてほしいと思います。

「頑張る」は TAKE IT EASY

二年間サポートルームで発行してきた「Take It Easy」紙のタイトルのもとの意味は「のんびりやる」「気楽にやる」「落ち着く」などです。一方「頑張る」の意味は「こまでも忍耐して努力する」(広辞苑より)です。どうもこのふたつには接点はなさそうです。が、実はあります。◆日本語の「頑張る」は日々の生活では、辞書の本来の意味よりも軽い意味合いの方が多く、例えば別れ際に友達どうして「じゃあ、がんばってね」などということがあります。これは「努力」の範ちゅうではなく、相手をねぎらうような意味合いです。英語でも別れ際、See you! 「Take it easy」というときは「のんびりやせ」という意味から派生して(無理しすぎない程度に)がんばってね」という気持ちも込められています。◆三年生はもうすぐこの五中を卒業します。一、二年生も四月から進級し、新しい学年、新しいクラスでの生活になります。期待と不安、緊張が入り混じりながらも、皆さん、焦らずいきましょ。 Take it easy!

